

あなたはスロー派、 それともファスト派？

兎 老 児

近年、注目を浴びている言葉の一つに「スローフード」あるいは「スローフード運動」をあげることができます。この言葉を聞いた誰でも反射的に頭に浮かぶのは、「ファストフード」でしょう。この言葉を、私たちは日常的に、「ファーストフード」と延ばして発音することが多いのですが、これは明らかに誤用です。First (最初の)ではなくてFast (速い)なのです。さて、この「ファストフード」の典型として頭に浮かぶのは、「マクドナルド」のハンバーガーや「吉野や」の牛丼、あるいは「コンビニ弁当」です。

注文すると、「大勢の客でも」「素早く」「安価に」提供される簡便軽食で、その「味」は、九州で食べても北海道で食べても変わらないことも大きな特徴です。それは、大量仕入れの画一食材を統一化された調理法、すなわち徹底的に「マニュアル化」された調理の産物なのですが、二十世紀の、スピード、効率、大量、安価追求という価値尺度にマッチして、ややおおげさに言えば、全地球的に広がったものと言えましょう。

この「ファストフード」は、単に簡便な食品や調理品を指すだけにとどまらず、ライフスタイル(生活様式)や価値観を象徴するものと捉える必要があるでしょう。

この「ファストフード」そのものと、「ファストフード」的ライフスタイルの反対の極にあるものとしての「スローフード」運動が、

イタリア北部で呱呱の声をあげ、またたくまにヨーロッパ全域、さらに日本をはじめ世界的な広がりを見せています。

そもそも原点は、その地域固有の食材を用いた家庭的な伝統料理に回帰しようということから始まったと聞いています。地域生産の食材は新鮮ですし、素性も明らかです。

家庭料理は、その家庭に代々伝わってきた固有の味を持っていますし、回らんの中で囲む食卓では、会話が弾み暖かい「ミニケーシヨン」が生まれます。

そこは、「効率」とか「早く」とか「大量に」とは無縁の世界です。私たちが失ってきた、あるいは失ってきたことすら気がついていないものを、再び見出し大切にしようというのが底流になっています。

このような、運動がヨーロッパの片隅から巻き起こったことにも大きな意味があるのではないのでしょうか。「ファストフード」の代表であるハンバーガーなどがアメリカから生まれたことでも判るように、まさに「効率」「大量」「低コスト」「ミニチュアル化」などを世界の先陣を切って実践してきたのがアメリカであり、日本をはじめ先進諸国もまた、それに追従してきたのです。しかし、それで得た「利便性」などの代償として、「ゆったりとした時間」「個性的な生き方」「回らん・会話」などが失われたのではないのでしょうか。まさに今、この「スローフード」運動は、ある意味では、この「アメ

リ力的価値観・生活様式」からの訣別を迫るものとも言えましょう。地域の食材を地域で消費する、いわゆる「地産地消」とも密接な関わりを持っていますし、近年のもっとも重要なキーワードである「食の安全」をも包摂するものです。

それと、単に「豊かで、安全な食生活」の追求に留まらない、ライフスタイルの再検討という問いかけがなされていると感ずるのです。

ヒトが、いったん獲得した利便を放棄することは困難であるのは、近所にある「コンビニ」が無くなったらと考えただけでも想像ができるでしょう。しかし、系列化された「コンビニ」の存在が、街なかの小さな食料品店や雑貨店などを消滅させたことを忘れてはならないでしょう。これを競争社会における優勝劣敗の当然の結果と見るか、地域「ミニマニエー」の重要な構成要素が失われてしまったと考えるかです。



より速く、より強く、より安くを求めて心荒ただしくして、私たちはどこに向かうのでしょうか。まさに、「そんなに急いでどこへ行く?」です。いま私たちの二十一世紀の根源的な生き方そのものが問われているのです。さて、あなたは、スロー派ですか、ファスト派ですか?。